



性能評価番号 HWP第1612-36号

## 性能評価書

エイム株式会社

代表取締役 小野 秀男

平成16年6月4日付けで引き受けた性能評価に係る下記の木造軸組耐力壁は、平成12年建設省東住指発第639号により建設大臣が認可した当財団の性能評価業務規程のうち、建築基準法施行令第46条第4項表1(八)項に係る業務方法書に規定する評価基準に照らして、下記のとおり耐力を有するものと評価する。

平成16年8月3日

財団法人 日本住宅・木材技術センター  
理事長 岡 勝男

## 記

## 1. 件名

壁の上下に開口を有する厚9mmミディアムデンシティファイバーボード張り／ねじKK50／ねじピッチ@12.5cm／直張り仕様／壁幅1mの木造軸組耐力壁

## 2. 性能評価区分

建築基準法施行令第46条第4項表1(八)項

## 3. 倍率の数値

「3.1」

## 4. 他の壁又は筋かいを併用したときの当該耐力壁の倍率の数値

建築基準法施行令第46条第4項表1に掲げる壁若しくは筋かいを併用する場合は、5を限度としてそれぞれの倍率を加算できるものとする。

## 5. 評価員名

鴛海 四郎 後藤 隆洋

## 4、短期基準せん断耐力の算定

短期基準せん断耐力の算定は、軸組業務方法書に準拠して行う。

- (1) 包絡線は、荷重-変形角曲線より作成し、図4. 1～図4. 6に示す。
- (2) 包絡線に完全弾塑性モデルを適合させ、各種特性値を算出し、表4. 1に示す。
- (3) それら特性値より下記の手順により短期基準せん断耐力を算定する。

(a)降伏耐力  $P_y$

(b)終局耐力  $P_u \cdot (0.2 / D_s)$

(c)最大耐力  $P_{max} \cdot 2/3$

(d)1/120rad 時荷重  $P_{120}$

(a)、(b)、(c)、(d)の各平均値にばらつき係数を乗じた50%下限値の最小のものを短期基準せん断耐力とする。それらを表4. 2に示す。

なお、ばらつき係数は下式による。

$$\text{ばらつき係数} = 1 - (\text{変動係数 } CV \times \text{定数 } k)$$

ここで、 $CV$  : 標準偏差 / 平均値

$k$  : 信頼水準 75% の 50% 下側許容限界値を求めるための定数  $N=3$  の場合  $k=0.471$

- (4) 表4. 2より算定された短期基準せん断耐力は、7.31 kN/mである。

表4. 2 試験荷重と50%下限値

項目	試験荷重 (kN/m)	標準偏差 (kN/m)	ばらつき係数	50%下限値 (kN/m)
$P_y$	8.94	0.25	0.986	8.82
$P_u \cdot (0.2 / D_s)$	7.53	0.47	0.971	7.31
$P_{max} \cdot 2/3$	11.26	0.13	0.994	11.19
$P_{120}$	8.30	0.79	0.955	7.93